

◇ 令和6年度 指定管理者事業評価書

施設名	のびっ子「渋川」			指定管理料	利用料金	支出	経理の状況	施設運営の方針
施設所管課	子ども未来部	子ども・若者政策課	初年度	14,734,416円		16,630,205円	事業収益を保育や施設の安全維持管理に還元するなど、効果的な予算執行が行われた。	施設の運営や事業の実施において、より満足度の高いものへとしていきます。
施設HPアドレス	http://ayumi.hoikuen.to/nobikko-shibukawa/		2年目	16,838,276円		17,655,099円	事業収益を保育や施設の安全維持管理に還元するなど、効果的な予算執行が行われた。	施設の運営や事業の実施において、より満足度の高いものへとしていきます。
指定管理者名	社会福祉法人良友会		3年目	17,246,795円		20,900,253円	事業収益を保育や施設の安全維持管理に還元するなど、効果的な予算執行が行われた。	施設の運営や事業の実施において、より満足度の高いものへとしていきます。
指定期間	令和2年4月1日 ～ 令和7年3月31日		4年目	16,443,430円		18,133,125円	事業収益を保育や施設の安全維持管理に還元するなど、効果的な予算執行が行われた。	施設の運営や事業の実施において、より満足度の高いものへとしていきます。
評価対象期間	令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日		5年目	17,078,700円		21,594,959円	事業収益を保育や施設の安全維持管理に還元するなど、効果的な予算執行が行われた。	施設の運営や事業の実施において、より満足度の高いものへとしていきます。

●総合評価の基準		
5	☆☆☆☆	評価基準のすべてが☆☆☆以上で、かつ、最も多い評価が☆☆☆☆である
4	☆☆☆	評価基準のすべてが☆☆☆以上で、かつ、最も多い評価が☆☆☆☆である
3	☆☆	評価基準の最も多い評価が☆☆である
2	☆	評価基準の最も多い評価が☆☆である
1		評価基準に☆が1以上ある

○その他の項目	
公募・非公募の別	公募
使用料・利用料金制の別	使用料
指定管理者による運営開始日	平成18年4月1日
施設の供用開始日	平成18年度
指定管理導入前の運営形態	包括的委託

◆総括評価を概括した総合評価の所見(成果・改善等)

●指定管理者の総合自己評価…	☆☆☆☆	●市(施設所管課)の総合評価…	☆☆☆☆
令和6年度の管理・運営に係る事業目標(年度当初に記入)		事業目標および管理・運営に対する評価(事業年度終了後記入)	
敷地内複合施設、近隣に小学校、法人運営のこども園があるという特色を活かし、体幹遊び等でまちづくりセンターの貸館、外遊びでは小学校運動場を利用し、夏にはこども園プールを利用する等、活動範囲を広げることに努める。保護者とのコミュニケーションを意識し、子どもの姿、成長を共有する。子どもたちが自主的に遊び、生活を進めていけるよう全ての支援員が意識して、子どもたちの行動一つ一つを丁寧に見守り、かかわっていく。ICTシステムの「コドモン」を活用し、おたよりの配信や活動の配信を行いながら子ども、保護者との信頼関係を築いていく。		概ね適正な管理運営ができている。人員配置、保育業務、学校・地域との連携、児童・保護者への対応、苦情・要望への対応など、サービスの質の向上に努めながら、良好に管理運営がなされている。	
事業目標および管理・運営に対する自己評価(事業年度終了後記入)		公募・非公募、使用料・利用料金制の導入についての効果の検証	
夏季休業中にはロクハ公園での自然体験活動、バスを利用して長浜ヤンマーミュージアムと湖北野鳥センターへの遠足を実施する。こども園プールでの講師による危機回避の方法等の水泳指導の実施や吉本芸人を招いて、実際のプロの芸を観て感じる等、体験活動を実施した。また、滋賀県金融広報委員会主催による「おかねのね教室」。草津市長寿いきがい課の方による「認知症講座」を実施する。まちづくりセンター貸館(大会議室)を利用して、子ども達が自主性を大切に活動を進められるように子どもたちで企画して実施する。年間を通して、運動遊び(体幹・ビジョントレーニング)を実施。外遊びに出にくい環境の中、身体作りに繋がる活動にも取り組む。年間を通して工作に取り組み、冬場は毛糸を使って人形やボシエツ作りを楽しむなどの、季節に応じた活動を実施した。日々のお迎え時を中心に、保護者とのコミュニケーションも円滑に進める事が出来た。		(公募による応募状況等) 公募による募集を行い、草津市指定管理者選定評価委員会での審査、意見により候補者選定を行った。現指定管理者は過去からの実績を踏まえ、他の申請団体と比して保育理念等に優れ、児童に対する安全管理について学校等関係機関との連携を密にしている点で高く評価でき、指定施設の効用を最大限に発揮した施設の管理・運営を果たしている。 (使用料導入についての効果の検証) 公設児童育成クラブは草津市児童育成クラブ条例に基づき、保育料を一律としているため、他クラブとの差異や、指定管理者としてのインセンティブはなく、利用料金制の導入は行っていない。	

◇施設に係る主な指定管理業務	
草津市児童育成クラブ条例第3条に定める、次に掲げる業務	
(1) 放課後児童健全育成事業の実施に関する業務	
(2) クラブの施設および設備の維持管理に関する業務	
(3) 前2号に掲げるもののほか、市長が必要と認める業務	

◆評価基準	
☆☆☆☆☆	仕様書・協定書等の基準を遵守し、その水準よりもはるかに優れた内容である
☆☆☆☆	仕様書・協定書等の基準を遵守し、その水準よりも優れた内容である
☆☆☆	仕様書・協定書等の基準を遵守し、概ねその水準に沿った内容である
☆☆	仕様書・協定書等の基準は遵守し、若干の改善が必要な内容である
☆	仕様書・協定書等の基準を遵守しておらず、改善が必要な内容である

施設全般の管理運営に関する業務(職員の配置や研修の実施、入所状況等) (仕様書 P1.2)			
評価項目1	指定管理者の自己評価		市(施設所管課)の評価
	上半期評価	基準に対してゆとりある支援員配置を心がける。新入所児が安心してのびっ子の環境、生活習慣を身につけられるように丁寧にかかわった。法人看護師を講師に心肺蘇生法、エビベン使用の研修を支援員全体で実施する。放課後児童支援員向けの研修に積極的に出席し、支援員全体で内容を共有し、資質向上に努めた。	上半期評価 仕様書に定める基準を遵守しながら適正に運営された。児童全体を見渡すため、ゆとりある支援員配置に務められた。独自に救命講習やエビベン講習等実施し、支援員の質の向上を図られた。
	☆☆☆☆☆		☆☆☆☆☆
	下半期評価	普段より各支援員で記入しているヒヤリハットを定期的に振り返り、年度末には取りまとめたものを周知し、支援員の危機管理意識の向上に努めた。支援員認定資格研修、キャリアアップ研修をはじめ、研修には積極的に出席できるよう勤務に配慮し、支援員全体で共有することで資質向上に努めた。	下半期評価 市が開催する研修にも積極的に参加された。また、普段の保育の記録から安全な保育環境の見直しを独自で行うなど、支援員等の資質向上に努められた。
	☆☆☆☆☆		☆☆☆☆☆

事業の実施に関する業務(保育・事業の充実に向けた取組、個人情報の取扱い等) (仕様書 P1.2)			
評価項目2	指定管理者の自己評価		市(施設所管課)の評価
	上半期評価	毎月の誕生会では、子どもたちがリーダーになり楽しい会にしたいという思いに任せ、支援員は子ども達の成功体験の過程を大切に见守り関わった。敷地内施設やこども園を利用する等して、プール・自然体験等、季節に応じた活動を意識し計画・実施した。各個人情報書類は鍵付き書庫で管理し、個人情報の取扱いに努めた。現金は法人施設の児童センターで保管する。	上半期評価 イベントについては、児童が主体的となって企画し、自主性や社会性を身につけるよう工夫し、時季に合ったイベントを実施された。また、個人情報についても、鍵付きの机に保管し、適正な管理をされていた。
	☆☆☆☆☆		☆☆☆☆☆
	下半期評価	上半期に引き続き、誕生会、まちづくりセンターを利用した運動遊び(体幹)を実施する等、子ども達の体験や経験を意識して、保育の充実に努めた。毛糸の編み物では、人形・ポシェット作りに取り組み、子どもたちが贈る相手を思いながら作れるように進めた。	下半期評価 イベントについては、児童が主体的となって企画し、自主性や社会性を身につけるよう工夫し、時季に合ったイベントを実施することにより、遊びや体験を通じて、児童が楽しめるよう保育を工夫された。
	☆☆☆☆☆		☆☆☆☆☆

児童の保育に関する業務(おたよりの活用、アンケートの実施、児童への対応等) (仕様書 P2.3)			
評価項目3	指定管理者の自己評価		市(施設所管課)の評価
	上半期評価	毎月の各家庭へのおたより配信(コドモン)はもちろん、夏休み前の個別懇談会(希望制)の実施、送迎時の保護者とのコミュニケーションを大切に、のびっ子での姿、家庭での姿を共有した。気になる子どもに対しては家庭との連携を含め、小学校とも連携を図りながら子どもたちの成長を見守った。	上半期評価 毎月のおたよりや送迎時にて児童の普段の様子を伝えられた。個別懇談を実施し、保護者とのコミュニケーションを図られた。また、必要があれば小学校とも連携し、児童の様子や家庭状況をきちんと把握し、適切な対応に努められていた。
	☆☆☆☆☆		☆☆☆☆☆
	下半期評価	上半期に引き続きおたより配信(コドモン)、学年末の個別懇談会(希望制)を実施する。年末にはアンケートを実施し、集計結果を支援員間で周知し、保護者にも、質問に対する回答を掲示にて行った。申請から入所決定時期には見通しのもてない保護者や子どもとコミュニケーションを図りながら不安の解消に努めた。	下半期評価 毎月のおたよりや送迎時にて児童の普段の様子を伝えられた。個別懇談を実施し、保護者とのコミュニケーションを図られた。実施した保護者アンケートの内容を支援員間で共有し、その内容を保護者にきちんと還元することなど、保護者に寄り添った対応を心がけておられた。
	☆☆☆☆☆		☆☆☆☆☆

管理物件の維持保全等に関する業務(保守点検、安全対策等) (仕様書 P3.4)			
評価項目4	指定管理者の自己評価		市(施設所管課)の評価
	上半期評価	支援員による月2回の日常点検、年1回の年間点検を実施し、維持管理に努めた。消防訓練では、複合施設合同の避難訓練(8月)に参加する。セコムに委託し、消防設備点検を実施した。玄関を常時施錠し、インターホンで対応する等、安全対策に努めた。	上半期評価 安全対策として防犯・防災マニュアルを作成し、それに基づいて毎月避難訓練を実施されているが、多い月では独自に訓練へ参加し、安全対策に努められた。玄関の常時施錠の体制をとり、安全な保育を保たれるよう努められた。
	☆☆☆☆☆		☆☆☆☆☆
	下半期評価	上半期に引き続き、支援員による月2回の日常点検等、維持管理に努め、複合施設合同の避難訓練、警察署員による不審者対応講習(3月)への参加、セコムによる消防設備点検を実施する等、安全対策に努める。一つ間違えると大きな怪我や事故になりかねない出来事については子どもたちに周知し子どもたちの危機管理意識の気付きに努めた。	下半期評価 安全対策として防犯・防災マニュアルを作成し、それに基づいて毎月避難訓練を実施されているが、多い月では独自に訓練へ参加し、安全対策に努められた。事故につながる危険な箇所や行動について、児童の安全意識の向上に努められた。
	☆☆☆☆☆		☆☆☆☆☆